

スタートカリキュラム編成・実施・改善の実践研究

— 小学校教員の幼小接続に関する意識化に向けて —

学籍番号 169959

氏名 胡 精吾

主指導教員 富田 福代

1. 社会背景

近年、小学校第1学年の教室において、授業中に立ち歩く、教室から出て行くといった実態が全国的に見られるようになってきた。この間、その小1プロブレムの解消と予防に向けて、幼児教育と小学校教育をつなぐ幼小接続の考え方が重要であることが国内外の研究から明らかとなってきた。平成10年に告示された学習指導要領等から幼小接続の重要性が取り上げられてきたものの、学校園所において具体的な取組みが進んでこなかった現状がある。しかし平成29年3月告示の小学校学習指導要領では、スタートカリキュラムの編成・実施を行っていくことが総則に明記され、益々スタートカリキュラムの重要性が高まっている。

2. 本研究の目的と計画

本実践課題研究の目的は、スタートカリキュラムの編成・実施・改善の過程を通して、小学校第1学年担任教員が幼児教育への関心を高め、幼児教育と小学校教育の教育課程の接続への意識を深めることである。国立教育政策研究所が作成した「スタートカリキュラムスタートセット」を中核に研究協力校スタートカリキュラムの編成・実施・改善を行い、平成30年度スタートカリキュラムモデルを作成する中で幼小接続への意識化がなされると仮説を立てた。

3. 幼児教育に関する事例研究

スタートカリキュラムを編成する上で、小学校教員にとって幼児教育及び幼児期の子どもについての理解は欠かせない。そこで幼児教育について研究を進めている幼稚園と幼小接続をテーマに研究を行っている幼稚園と小学校を対象に事例研究を行い、幼児教育と幼児期の子どもの学びについて理解を深めた。その結果、幼児教育では一人ひとりの子どもの育ちを把握してカリキュラムに反映させていること、子どもの目線に立って子どもが学びたい内容を重視した単元開発を行っていること等が明らかになった。

4. 幼小接続に関する意識調査

研究協力校の小学校教職員が、幼小接続に対してどのような関心があるかを明らかにすることを目的に平成 29 年 3 月に意識調査を行った。その結果、研究協力校の全教職員が「幼小接続が必要」であり、「幼児教育の教育課程や指導方法等について知ろうと思ってい

る」ことがわかった。しかしながら、研究協力校教職員の半数以上が「小学校のスタートをゼロとしてそろえて指導を行う考え方」を肯定的に捉えていることが明らかとなった。

5. スタートカリキュラムの編成

スタートカリキュラムの編成にあたっては、まず研究協力校に就学する子どもの実態と国内の幼小接続に関する資料を分析した研究成果からスタートカリキュラムを実施する期間を決めた。次に国立教育政策研究所が作成した「スタートカリキュラムスタートセット」を中核にスタートカリキュラムの編成に必要な 4 つの要素として「子ども理解」「時間割や学習活動の工夫」「合科的・関連的な指導」「環境構成」を抽出した。それらを踏まえて研究協力校に就学する園児の通う保育所園を訪問し、保育士や幼稚園教員との情報交換を通して子ども理解を深めた。その上で、スタートカリキュラムの編成を研究協力校第 1 学年担任教員とともに進めていった。

6. スタートカリキュラムの実施と改善

スタートカリキュラムを実施する中で、第 1 学年担任教員が「子ども理解」として遊びが学びとなることや、「時間割や学習活動の工夫」として目の前の子どもたちは何ができて何ができないのかを考えることを意識し、スタートカリキュラムの改善を進めていった。また新入児は「合科的・関連的な指導」の中で、自らの思いや願いの実現に向けた活動をゆったりとした時間で進めていき、「環境構成」として工夫された学習環境の中で、人間関係が豊かに広がり学習のきっかけが生まれることを通して主体的に学ぶ姿を見せるようになった。さらに、第 1 学年担任教員と協働で研究協力校の平成 30 年度スタートカリキュラムモデルを作成し、保育士からの助言を受けて改善を加えていく過程の中で、第 1 学年担任教員が幼児教育への理解を深め、幼小接続への意識化がなされていった。

7. 分析と考察

第 1 学年担任教員の幼小接続に関する意識の変容について、平成 29 年 11 月に意識調査を行った。そのアンケート結果及びインタビューを分析した結果、研究協力校において、スタートカリキュラムの編成・実施・改善の過程を通して、第 1 学年担任教員の意識化がなされた。一方で、幼児教育が重要だと意識しながらも幼児教育現場への参観等を行う行動変容にまでは至らなかった。幼小接続コーディネーターの役割の提言とともに、今後、幼児教育と小学校教育の接続のみならず、隣接学年をつなぐ、さらには小学校と中学校をつなぐ新たなスタートカリキュラムの発展的展望が求められる。